

1. 報告要旨

コープ自然派の友好生協グループである生協ネットワーク 21 では、「ネオニコに安全レベルはない」「オーガニック推進」を2つのアプローチとして、連携してネオニコフリー取り組みをすすめています。

●日本でもネオニコフリー栽培は可能

コープ自然派では、2006 年有機農業推進法が成立した翌年に有機の学校「小松島有機農業サポートセンター」を設立し、有機農業を推進しています。しかし、ネオニコ系農薬は安価で1度使えば効果が持続するため環境保全型農業にも広く使われており、特に果菜や果樹はネオニコ排除しにくい作物でした。そこで、組合員と生産者がともにネオニコについて学び、ネオニコ排除に取り組む農作物を選べるよう 2017 年度から商品カタログにネオニコフリーマークを表示しました。その結果、ほとんどの組合員がマーク付き農作物を購入し、それに応じて年々ネオニコフリー農作物が増えています。(2019 年度農産物の受注割合:ネオニコ不使用 89.6%、ネオニコ削減中 7.3%、マーク表示なし 3.1%) 2019 年度は生協連合会アイチョイスでもネオニコフリーマークの導入を開始しました。

●ネオニコフリーをひろげるために

ネオニコフリー農作物を「選ぶ」「買う」人を増やすために、今年度はビデオを制作しました。(6/30 現在、計 5400 回再生)子どもたちを守るために子育て層=スマホ世代への web 情報拡散も大きな目的としました。また、啓発マンガや、使用権フリーのネオニコフリーマークも制作しました。

世界のオーガニック市場規模は 2017 年約 970 億ドル(10.7 兆円、前年比 108%)に達し、年々広がっています。日本でも新規就農者の多くが有機農業を志向しており、消費者が生産現場とつながり、「選ぶ」「買う」ことで未来を選択できます。ネオニコ削減、有機・無農薬栽培技術を示すとともに、組合員と生産者が相互理解を深め、ネットワーク生協でネオニコフリーマーク導入をすすめたいと考えています。

●安全性を保証しない農薬規制

講演会では、ネオニコ系農薬の脳神経系への影響や、胎児期から日常的に暴露を受けていること、摂取しなければ体内のネオニコ量は激減することなどを学び、ネオニコフリーへの確信を得ました。マウス実験では、無毒性量の投与で第3第4世代にもさまざまな異常が報告されています。安全性を保証していない現行の農薬規制見直しを求める活動に取り組みたいと考えています。

2. 成果物

1. [2019 年度生協ネットワーク 21 のネオニコフリー取り組み](#)
2. 生活協同組合連合会アイチョイスで商品カタログにネオニコフリーマーク導入開始 (2020 年 10 月～)
3. ビデオ「米や野菜、果物を「ネオニコフリー」にすることから始めよう」
[3 分版](#) / [12 分版](#)
4. ビデオ英語字幕版「Let us start by making rice, vegetables and fruits NEONICO-FREE!」
[3 分版](#) / [12 分版](#)
5. 講演会「ネオニコチノイド研究の最前線と遅れる規制」(2019.10.3.)
6. 講演会「[農薬の人体影響～ネオニコチノイド、グリホサートの危険性](#)」(2020.1.31.)
7. ネオニコマンガ「[～新米ママぷっこのお悩み～ネオニコ農薬ってなんだろう?①～④](#)」
8. [ネオニコフリーマークリニューアル\(不使用/削減中/NO ネオニコ\)](#) * 使用権フリー
9. [米の等級制度の見直しを求める共同署名提出](#) (2019.8.23.)